

令和 6 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

大阪府立初の（併設型）中高一貫校として 120 年を超える伝統を有する府立富田林高等学校に併設された本校は、先進的な中高一貫教育を通して、地域や世界と協働しながら深い教養と探究心・豊かな人間性を涵養し、「地球的視野を持って未知の課題に挑み、地域や社会に貢献するグローバル・リーダー」の育成をめざし、未来に向けた挑戦を続ける。 ＜中高一貫教育を通して育みたい力＞ （１） グローバルな視野とコミュニケーション力 （２） 論理的思考力と課題発見・解決能力 （３） 社会貢献意識と地域愛

2 中期的目標

1 確かな学力の育成 （１）カリキュラムマネジメントに基づき教育課程を編成し、各教科・科目においては確かな学力を育成する授業・評価サイクルづくりを念頭に授業改善に取り組み、知識・技能はもとより、思考力・判断力・表現力及び、生徒の主体性・協働性を育む。 ア 45 分×7 限授業（35 単位時間（45 分授業））により、2 学期制のもとに確かな学力の育成に取り組む。 イ 「授業改革推進委員会」を核として、「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業改善に組織的かつ恒常的に取り組む。 ウ 各教科において中高 6 年一貫の「学び」を可視化し、当該教科に留まらず教科横断的なカリキュラムマネジメントを推進する。 エ 6 年一貫の Can-do リストに基づく英語の運用能力の素地を育成する。 オ 「オンライン学習研究委員会」を核として「1 人 1 台端末」の効果的活用を学校全体で進め、生徒の学びを支援、深化させる。 ※（生徒向け）学校教育自己診断における授業満足度を令和 8 年度まで 90％以上を維持する。（R3 93％ R4 93％ R5 89％）
2 高い志をはぐくみ、進路実現をめざす取組み （１）中高一貫して「探究」と「貢献」をキーワードに教育活動を組み立て、地域に対する愛情を基礎に、国際社会に貢献しようとする高い志をもつ人材を育成する教育を推進する。 ア・スーパーサイエンスハイスクールとして「総合的な学習の時間」では、学年に応じた探究プログラムを改善し、地域をフィールドとして広域外部サポーター（同窓会、自治体、企業、大学、NPO 等）と協働で課題発見や課題解決能力の育成等、科学的リテラシーを育成するとともにキャリアプランニング能力を育成する。 イ・学力向上推進委員会が中心となって、中高一貫した進路指導実現のための様々な取組みの具現化を図る。 ※（生徒向け）学校教育自己診断における「探究活動の満足度」を令和 8 年度も 85％以上にする。（R3 86％ R4 83％ R5 85％） また、「これからの時代や自分の将来について考える機会がある」の満足度を令和 8 年度も 80％以上を維持する。（R3 77％ R4 81％ R5 86％）
3 豊かな感性とたくましく生きるための健康と体力をはぐくむ取組み （１）充実した学校生活こそが、「生きる力」の源泉になることから、中高一貫教育の観点から学校行事等の一層の充実を図る。 ア ＜中高一貫教育を通して育みたい力＞の育成に向けて、学校行事を充実させるとともに中高一貫した部活動指導を図り、文武両道をめざす。 イ 人権教育を推進するとともに、国際社会の一員として必要な人権意識・マナーを醸成する。 ウ 互いに高め合う、あたたかな仲間づくりを進める。 ※（生徒向け）学校教育自己診断の学校行事満足度を令和 8 年度も 90％以上を維持する。（R3 99％ R4 96％ R5 95％）
（２）異文化交流による国際教育を中高一貫して推進する。 ア 国際交流（マレーシア、台湾、ベトナム、タイ、トルコ、オーストラリア、アメリカ、ネパール等）の充実及び新たな交流国の開拓 イ ・海外姉妹校及び新たな交流校や、高校との連携による高校姉妹校・交流校との交流の継続 ・グローバル人材の育成に向け、中高一貫教育を踏まえた段階的海外研修を計画、実施する。 ※（生徒向け）学校教育自己診断結果で「国際交流等を通したグローバルな視野とコミュニケーション力の育成」を令和 8 年度も 90％以上を維持する。（R3 93％ R4 94％ R5 93％）
4 中高一貫校としての「スクール・ミッション」等の明確化と地域・保護者との連携 （１）中高一貫校として「スクール・ミッション」「スクール・ポリシー」を明確にし、6 年一貫した教育活動の充実を図る。 ア 中高一貫の観点で「スクール・ミッション」「スクール・ポリシー」を策定すべく、それぞれ校種の校務分掌を有機的に関連付けて協働させ、学校全体で共通認識を図る。 イ 全国的な教育研究会への参加や、全国の教育先進校等の視察を行い、中高 6 年間の教育内容を常に検討し改善に努める。 ウ 中高一貫校として、またコミュニティ・スクール、スーパーサイエンスハイスクールとして相応しい学校 Web ページとなるよう随時改修しながら、質・量ともに充実した情報発信に努める。 ※（保護者向け）学校教育自己診断における情報発信の満足度を令和 8 年度には 90％以上をめざす。（R3 88％ R4 89％ R5 89％）
（２）地域・保護者と連携し、魅力ある学校づくりをすすめる。 ア コミュニティ・スクールとして広域外部サポーター（同窓会・企業・大学・自治体・NPO 等）と連携のもと社会貢献を推進し、魅力ある学校づくりをめざす。 イ 安全・安心な学校づくりに努める。 ※（生徒向け）学校教育自己診断における学校満足度を令和 8 年度も 90％以上を維持する。（生徒： R3 95％ R4 94％ R5 95％）（保護者：R3 97％ R4 95％ R5 95％）
5 働き方改革の推進 （１）業務効率の向上を図り、職員の心身の健康を維持する。 ア 「大阪府部活動の在り方に関する方針」に則り、中高連携した部活動指導を行うとともに地域と連携した部活動の在り方についても検討する。その上で、ノークラブデー、ノー残業デーの徹底し、時間外勤務を縮減する。 イ 全般的に校務や業務分担を見直し、民間や外部人材活用などアウトソーシングの観点も取り入れ、業務の軽減・効率化を図る。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析〔令和6年12月実施分〕	学校運営協議会からの意見
（ ）内は昨年度 1. 学校満足度 ＊生徒・保護者ともに満足は高い。 <主な結果> （生徒）「富田林中学校に入学してよかった」93％（95） （保護者）「富田林中学校で学ばせることが出来てよかった」98％（95） （保護者）「教育方針をわかりやすく伝えている」90％（93） 2. 学力の育成 ＊授業改善にむけた取組みが進んでいることがわかる。（生徒回答） ＊保護者は学力の育成に対する取組みに概ね満足。学習端末の使い方については生徒と保護者では受け取り方が違う。家庭での活用が効果的となるよう工夫が必要。 ＊必要な宿題の量（教科バランス）、生徒の家庭学習状況とのバランスの調整が引き続き必要。 <主な結果> ①授業 （生徒）「わかりやすく興味が持てる授業」91％（88） 「内容を深く考えさせる授業」92％(91) 「学習端末の効果的な活用」95％（94） （保護者）「子どもは授業がわかりやすく楽しいと言っている。74％（76） 「学校の学習活動への取組に満足」89％（89） 「子どもは学習端末を効果的に使っている。」79％（74） ②家庭学習 （生徒）「宿題の量は適切である」65％(59) ※家庭学習については ICT、すき間時間の活用方法等を検討しながら見直しを図る。 3. 学校生活 ＊生徒が学校生活について主体的に考え、生徒同士が高め合い認め合える学校づくりを推進していく。生徒指導の充実が図られていることがわかる。今後も教員の生徒理解に基づいた指導方法の習得及び指導力向上が引き続き必要。 <主な結果> （生徒）「生活指導に満足」85％(86)「いじめ対応に満足」89％（86） 「悩みを相談できる先生」75％（66） 「悩みを相談できる友人等」86％（86） 4. 特色ある取組、豊かな感性 ＊本校独自のグローバル教育についての取組み及び学校行事に関して生徒・保護者両者は概ね満足。本年度はグローバルリーダー育成海外研修や海外との交流、国連学習、新規修学旅行（グアム）等多くの活動ができた。 ＊総合的な学習の時間などの探究活動について、アントレプレナーシップ的要素を取り入れプログラムを実施した。また、実践研究について文部科学省の指定を受けたことなどから取組みの充実を図った。 <主な結果> ①グローバル教育 （生徒）「グローバルな視野とコミュニケーション力育成に満足」95％（93） （保護者）「グローバルな視野とコミュニケーション力育成に満足」97％（95） ②探究活動 （生徒）「探究活動（深く考え、情報を収集し、発表する力の育成）」89％（85） （教員）「探究活動（深く考え、情報を収集し、発表する力の育成）」100％（100） ③学校行事 （生徒）「学校行事への満足度」96％（95） （保護者）「学校行事への満足度」95％（90） 5. 情報発信 ＊学校からの情報発信については概ね良好である。 <主な結果> （生徒）「情報発信に満足」92％（87） （保護者）「情報発信に満足」88％（89） 6. 学校経営 ＊学校経営方針は明確化されている。 ＊社会に開かれた教育活動を産学官協働により充実させていく。 ＊本校に課せられたミッションを明確なビジョンのもとに教育改革を進めていく。 <主な結果> （保護者）「教育理念や学校運営方針の表明」90％（93） （保護者）「新しい教育活動への対応」94％（93）	第1回（令和6年7月9日火曜日） 1. 協議 ○令和6年度大阪府立富田林高等学校経営計画の改定について 【意見】 ・私立無償化の影響による定員割れについてはどう考えているのか。 ・下がった進学実績についてはどのように向上させるのか。 ・進学や就職が目標にならないように、質をともなった進路選択をしてほしい。 ○教科書選定について 【事務説明】 ・調査報告（選定候補及び候補選定に至る理由等） →資料（教科書等）を確認後委員から意見をいただいた。 【意見】 ・原案に異議なし。 ○地域学校協働活動等について <野球クラブについて> 【事務説明】 ・高校野球部 OB 会より申し出があり、高校野球部 OB 会が組織する野球クラブが府保健体育課事業を受け、本校中学生を対象に野球教室を開催する予定。 ・高校野球部 OB 会としては、今後、本校生徒を募集対象とした野球クラブを開設する予定。活動場所の一つとして高校グラウンドを使用もお願いしたいため、中学・高校と協定を交わした上で地域学校協働活動として実施させていただきたいとの意向。 ・中高部活動検討委員会を立ち上げ検討している。 【意見】 ・中高での校内環境整備が必要であり、高校でも部活動を存続していかなければならない。 また、怪我した場合の教員の責任等について備品管理と対応マニュアルが必要である。 <フリースクール（地域学校協働本部「NPO 学びと育ち南河内ネットワーク」が運営）との連携協定第2条三項について> 【承認事項】 ・原案承認（定期考査については学校で受験する。） 2. 報告 ・進路指導、グローバル教育、総合的な学習（探究）、生徒指導 ＊コミュニティ・スクールとして 地域企業と連携し、探究学習や企業訪問を通じて、実践的な学びを提供していく。 ＊重点取り組みとして 生徒のコミュニケーション能力を向上させ、いじめや不登校の防止に取り組む。 3. 事務連絡 第2回（令和6年12月9日月曜日） 1. 協議 ○地域クラブとの地域学校協働活動について ・安全面や責任の所在について詳細な議論が行われ、協定書、覚書の内容について確認。 【承認事項】 野球クラブと学校（中高）の協定書・覚書の内容について承認。 野球クラブの活動を地域学校協働活動として承認。ただし条件として、野球クラブと学校との定期的な連絡会議を開催すること、野球クラブはいじめ対応マニュアル、事項等対応マニュアルを策定すること。 ○校則の見直し 【意見】 ・高校の頭髪ルール改定について、生徒の意見を取り入れる手法として、賛成・反対に分かれて生徒全体でディベートを行ってはどうか。 ○コミュニティ・スクールの推進 【意見】 ・学校運営協議会に生徒が参加する学校もある。また、生徒会選挙に学校運営協議委員が出席するなど、子どもの学校への思いを聴く機会を増やしてほしい。 2. 報告 ○中学・高校の教育活動について 【意見】 <海外研修・修学旅行> ・今後も生徒に異文化を体験できる学習機会を提供してほしい。 <高校の進路状況> ・学力の二分化傾向に対応してほしい。 ・大学に来ても幅広いことを学び、広い視野を持ったまま専門性を高めてほしい。 3. 事務連絡

	第3回（令和7年2月8日土曜日） 1. 意見 ○探究学習の成果報告について ・中学生・高校生の探究学習のレベルが向上した。 ・企業や地域の協力により、生徒たちの思考力・探究力が向上した。 ・高校生の発表が非常に優れており、他校の発表とも比較される。 ○地域フォーラムについて ・フォーラムの2日間開催の会場変更により、より活発な雰囲気が生まれた。 ・代表生徒の発表力の高さや、一般生徒のレベルの向上が評価される。 ・保護者の参加が例年より少なかったが、中学校でのゼミ発表が影響している可能性がある。 ・企業の協力が深まり、人材育成に積極的に関わる動きが増加した。 ・企業が教育に関与する意義についても議論された。 ・学校と企業のネットワーク強化の必要性が再確認される。 ・商品化されたものの継続について議論された。 ・商品化後の事業継続性が課題として挙げられた。 ・企業や地域の協力を活用し、引き継ぎや支援体制を整備する必要がある。 ・探究活動の成果をどのように広げるか。 ・商品化された研究の持続可能な発展方法を検討する必要がある。 ・地域とのさらなる連携強化を進める。 ・長野県の義務教育学校では、地域 NP0 や企業と連携し、開発した商品を継続的に販売したことがある。 ・収益を活動資金に還元する仕組みを構築し、次世代の生徒が活用できるようにしている。 第4回（令和7年2月25日火曜日） 1. 報告 ○地域学校協働活動（野球クラブ）について ○令和6年度の学校関係者評価および令和7年度学校経営計画について 2. 協議 令和6年度学校関係者評価および令和7年度学校経営計画について ○意見 ・生徒、保護者の満足度が高いことは素晴らしい。自分も子どもも満足している。 ・不登校生徒に関しては全国平均よりも低いとはいえ残念である。 ・中学校の「勤務満足度」100%は素晴らしい。 ・コロナの後遺症で気力が上がらない生徒もいるかもしれない。 ○決定事項 「承認」 本協議会の振り返り ・協議会への委員の出席率が低くなっている。 ・生徒会選挙の映像等を見ることで、生徒の想いやニーズを聞きたい。 ・来年度の学校運営協議会について（事務局より） 多くの人が参加できるように日程調整を行う。 熟議への生徒の参加やT B S（富校バズセッション：教員職員の熟議）への協議会委員の参加を検討したい。 コーディネータの数を増やす予定。 3. 事務連絡
--	---

府立富田林中学校

中期的 目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標　[R 5 年度値]	自己評価
1 確 かな 学 力 の 育 成	(1) ア　45分×7 限授業(35単位時間(45分授業))により、2 学期制のもとに確かな学力の育成に取り組む。	(1) ア・45 分×7 限授業(中学校では週 35 単位時間)により、学校生活をデザインする。	(1) ア・(生徒) 学校教育自己診断における授業満足度 90%以上にする。[88%]	ア・(生徒) 学校教育自己診断における授業満足度 91%を達成した。次年度は生徒のコミュニケーション力の向上について具体的な取組みを進めたい。(◎)
	イ　「授業改革推進委員会」を核として、「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業改善に組織的かつ恒常的に取り組む。	イ・各教員がスーパーサイエンスハイスクールであることを意識し、探究的要素を取り入れた「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業デザインができるよう研究する。 ・定期考査において、「思考力・判断力・表現力」を問う問題づくりを進め、教科の枠を超えて学び合えるように取り組む。 ・中高合同の地域公開研究授業(DAY)を実施するとともに、全教科の教科研修を一定期間設け(授業交流週間 WEEKS)、各教科での研究授業を他教科からも授業参観がしやすい環境をつくる。また、授業観察シートを活用して教科の専門性を超えた授業研究を行う。 ・生徒による「授業アンケート」を7月、12 月に実施し、全教員による授業改善シートを作成する。	イ・(教員) 学校教育自己診断「主体的・対話的で深い学び」を意識して授業をしている。」90%以上をめざす[87%] ・(生徒向け) 深く考えさせる授業満足度 90%以上を維持する。[91%] ・(教員) 授業検討機会満足度 70%以上をめざす。[60%]	イ・(教員)「主体的・対話的で深い学び」を意識した授業は82%にとどまった。学力向上につながる授業改善の具体的な相関について委員会を中心に中高で分析し、組織的に生徒の学びを深めたい。(△) ・(生徒) 深く考えさせる授業満足度は 93%で過去最高を達成した。地域公開授業等を通じて外部教育関係者との意見交流機会を確保することで満足度 90%以上を維持したい。(◎) ・(教員) 授業検討機会満足度 53%にとどまった。次年度は他の業務との関連も踏まえ授業改革に必要な時間の確保に努めていきたい。(△)
	ウ　各教科において中高 6 年一貫の「学び」を可視化し、当該教科に留まらず教科横断的なカリキュラムマネジメントを推進する。	ウ　・各教科、科目の各単元等が、育む力とどのように関連付けられているか見直すことにより、カリキュラムマネジメントを進める。また、探究など他教科・科目との教科横断的な観点で内容の配置や精選について検討する。	ウ・カリキュラムマネジメントした内容(富中探究学習ハンドブック)を活用し、カリキュラムの進め方を改善する。	ウ・本年度は文科省指定「教育課程実践研究協力校」としてカリキュラムマネジメントした内容(富中探究学習ハンドブック)を活用し、カリキュラムの進め方の改善を図った。具体的には中学 1 年で探究学習の進め方、企業等の課題等を知る機会を設定し、中学 2 年で実際に企業を訪問し体験的に課題を把握、中学 3 年で探究成果をもとに企業等に提案する流れに改変した。次年度は、SSH の効果指標ハーツをさらに意識し、各教科において効果指標を意識した(探究学習)授業の実現をめざしたい。(○)
	エ　6 年一貫のCan-doリストに基づく英語の運用能力の素地を育成する。	エ・毎朝始業前に 10 分間の「モーニング・イングリッシュタイム」を実施し、中学校初期段階からリスニング力を強化する。 ・オールイングリッシュでの体験をベースとした「イングリッシュキャンプ」等を 1・2 年生で実施する。 ・中学 2・3 年生全員に英語能力試験(外部試験)を実施する。	エ・(生徒) グローバル教育推進度 90%以上を維持する。 [93%]	エ・(生徒) グローバル教育推進度 96%を達成した。中学 1 年では国連学習として元国連事務次長の講演、中学 2 年ではネパールとの交流、ジャイカ学習、中学 3 年では台湾、グアムの姉妹校との交流をメインにグローバル学習を展開できた。また中学 1・2 年でのイングリッシュワールドのカリキュラムの充実を図った。次年度も 90%以上維持をめざす。(◎)
	オ　「オンライン学習研究委員会」を核として「1 人 1 台端末」の効果的活用を学校全体で進め、生徒の学びを支援、深化させる。	オ・オンライン学習研究委員会を中心に、授業における端末の効果的な具体的実践について情報共有を図る。 ・ICT 等によるすき間時間を活用した学習方法や個別最適化に対応した学習方法を研究する。 ・デジタル教科書を導入し、研究実践を行う。(一部教科)	・英語能力試験(外部)の到達目標を下記のとおりとする。 中 2：520 点以上が 80 名 以上(CEFR A 1 以上) 中 3：690 点以上が 80 名以上(CEFR A 2 以上) オ・(生徒) 学校教育自己診断「学校は 1 人 1 台端末を効果的に活用している」90%以上維持する。[94%]	・英語能力試験(外部)は下記のとおりの結果となった。 中 2：520 点以上が 100 名(CEFR A 1 以上) (◎) 中 3：690 点以上が 81 名(CEFR A 2 以上) (○) オ・(生徒) 端末の効果的活用満足度 96%を達成できた。次年度は ICT の効果的活用について校務分掌内に位置付け、さらに充実させていきたい。(◎)

府立富田林中学校

2 高い志を はぐくみ、 進路実現 をめざす 取組み	(1) ア・スーパーサイエンスハイスクールとして「総合的な学習の時間」では、学年に応じた探究プログラムを改善し、地域をフィールドとして広域外部サポーター（同窓会、自治体、企業、大学、NPO 等）と協働で課題発見や課題解決能力の育成等、科学的リテラシーを育成するとともにキャリアプランニング能力を育成する。 イ・中高一貫した進路指導実現のための学力向上推進委員会が中心となって、様々な取組みの具現化を図る。	(1) ア・探究力の基礎となる思考力・判断力・表現力を育成するプログラムの開発）を具現化するプログラムを総合的な学習の時間に実行し、その成果を分析する。 ・広域外部サポーターを活用し、社会探究ベーシック、社会探究アドバンス、提案型探究について実施（10 月～3 月）し、課題発見や課題解決能力を育成する素地を養う。 ・SSH の取組み強化策として総合的な学習の時間の中で、大学や高校教員による自然科学に関する専門的な講座を充実することにより、自然科学探究への意欲・関心・態度を育成する。 イ・総合的な学習の時間の中で将来の生き方や進路について考える機会 3 回以上設ける。（講座、講演、出前授業等） ・学力向上推進委員会を定例化し、機能強化を図る。 ・大学進学に係る生徒面談（未来面談）を実施する。 ・大学入試に係る説明会（未来セミナー）を実施する。 ・生徒全員に学力推移調査等（外部試験）を実施し、将来の目標を早期に発見させる。 ・毎週火曜日の学習優先日に学習支援を実施する。	(1) ア・（生徒）学校教育自己診断における「総合的な学習の時間」の満足度 85%以上を維持向上する。[85%] ・文部科学省指定教育課程実践検証協力校として全国的な「総合的な学習の時間」の発展に貢献する。 イ・（生徒）将来の生き方や進路について考える機会満足度 80%以上を維持する。[86%] ・中高学力向上推進委員会との連携による中高を通じた学力向上策として教職員研修の 2 回以上の実施をめざす。 [2 回] ・各教科での学力分析を行い、結果と対策について校内プレゼンテーションを 1 回以上する。 [1 回] ・学力分析結果について保護者説明会を 2 回以上実施する。 [2 回] ・地域学校協働本部との協働による大学入試説明会の実施（1 回以上）をめざす。 [1 回] ・広域外部サポーターとの連携により学習優先日に中学・高校教員、高校生、地域人材（大学生等）を活用した学習支援の 20 回以上の実施をめざす。[20 回]	ア・「総合的な学習の時間」の満足度 90%となり過去最高値を達成した。企業との協働授業が充実し、企業側の意欲向上に伴う授業力向上がみられる。また、探究学習を通じた高校との交流、全国大会（高校）での受賞が中学生のモチベーションアップにつながっている。（◎） ・「総合的な学習の時間」に関して、全国から視察（6 団体）を受けるとともに講演（5 団体）を実施した。次年度は全国との交流を通じて得た成果を本校探究学習のさらなる発展に生かしていきたい。（◎） イ・（生徒）将来の生き方や進路について考える機会満足度 86%を達成した。総合的な学習の時間を通じてトップランナーや企業の方の考え方や生き方に触れる機会を今後も多く設定していきたい。（○） ・学力向上研修を 4 回開催し、教職員が学力向上についての基礎知識や向上策を検討するきっかけを作った。（○） ・学力向上プレゼンテーションを開催した。今年度は中学の取組を高校でも継続するよう発信した結果、中高合同開催が実現した。次年度も 6 か年を通じた学力向上を充実させる。（○） ・学力分析結果について保護者説明会を 2 回実施した。次年度も継続し、保護者の理解を求める。（○） ・地域学校協働本部との協働による大学入試説明会を実施した（生徒・保護者各 1 回）。また東京大学（希望者）、大阪大学（中学 3 年全員）の視察ツアーを実施した。次年度も継続する方向。（○） ・学習支援を 20 回実施できた。次年度は企業との連携による学習支援を検討する予定。（○）

府立富田林中学校

3 豊かな感性とたくましく生きるための健康と体力をはぐくむ取り組み	(1) ア <中高一貫教育を通して育みたい力>の育成に向けて、学校行事を充実させるとともに中高一貫した部活動指導を図り、文武両道をめざす。 イ 国際社会の一員として必要な人権意識・マナーを醸成する。 ウ 互いに高め合う、あたたかな仲間づくりを進める。	(1) ア・体育祭や文化祭等をはじめ、学校行事全般において、グローバル・リーダーの資質を涵養すべく、生徒の自主性を引き出す行事運営を行う。 ・中高合同の部活動指導の拡大を図る。 ・中高一貫した部活動、地域と連携した部活動をめざし、指導体制を整える。 イ・中学校段階に相応しい人権研修を計画・実施する。 ・挨拶、遅刻指導の充実と基本的な生活習慣を身に着けさせる。 ウ・生徒自らが課題を見つけ、自分自身や仲間とともに解決していこうとする力を育てる。中心となる活動として「メークハート運動」を実施し、学校全体で取り組む。 ・中高一貫した「いじめ基本方針」に基づきいじめを許さない仲間づくりを計画的に実施する。 ・生徒、教職員が快適に過ごせる教育環境を整備する。教育相談委員会（高校）との連携を強化し、中高全教職員での共有化を図る。 ・府又は市の生徒会サミットに参加し先進校の仲間づくりを学ぶ機会を設ける。[新規] ・演劇的な手法を用いてコミュニケーション力の育成を図る。 (2) ア・高校との連携も含め、海外での交流の可能性を探りつつ、ICTを活用しながら様々な国の生徒との交流を図る。 イ・海外姉妹校交流方法を工夫改善し、異文化を理解する態度をはぐくむ。 ・コミュニティ・スクールのしくみを活用し、中高6年間を見通した持続実施可能な海外研修を複数計画し、それぞれの研修のねらいを明確にしておく。 ・企業との連携により、海外研修の情報を提供する。	(1) ア・体育祭の充実について検討し、実施する。 ・部活動改革委員会を機能させ、部活動の改革を進める。 ・中高合同又は連携して実施する部活動を1部増やす。 ・地域と連携して実施する部活動について検討する。 イ・課題に合致した人権研修、生徒指導研修の実施。 ・人権教育推進委員会を定例で開催し（週1回）中高系統性のある指導を行う。 - ウ・「メークハート運動」を実施し、生徒自らが課題を見つけ、解決に向けた取組みについての実施をめざす。 ・計画的な生徒指導を実践するため、パッケージ化された生徒指導推進プログラムを実践する。 (生徒) 学校教育自己診断結果における「いじめ対応」に対する満足度90%以上をめざす。[86%] (生徒向け) 学校教育自己診断結果における悩み相談の満足度「相談できる先生」60%以上[66%]、「相談できる友達・先輩後輩等」80%以上[86%]を維持向上する。 府又は市の生徒会サミットに1回以上参加する。 ・演劇的な手法を用いたコミュニケーション力の育成の取組みについて文化祭での発表をめざす。 (2) ア・多くの生徒が海外の中・高校生との2カ国以上の交流をめざす。[2ヶ国] イ・新たな海外交流先について検討し、海外姉妹校との交流を充実させる。 ・持続実施可能なグローバルプログラムについて内容のリニューアル等をグローバル委員会で検討する。(定例開催) ・(生徒) グローバル教育推進度90%以上を維持する。[93%]	ア・体育祭を中高合同で企画し大阪市中央体育館で実施した。生徒による行事内容の検討及び運営をサポートすることができた。 ・中高部活動改革委員会を開催し、働き方改革を見据えた部活動実施を検討し、以下の実践を行った。(○) ・中高合同又は連携して実施する部活動を1部増やした。(○) ・府教育庁保健体育課と連携し、高校野球部OB会が運営するクラブチームの活動をコミュニティ・スクールの一環として地域学校協働活動に位置づけ、次年度より開始する予定。(◎) イ・仲間づくり、部活問題学習をテーマとした人権研修を実施した。 また、保護者対応をテーマとして弁護士、精神科医を講師に招き生徒指導研修を実施した。さらに、次年度に向け対話的手法の導入にあたり先進的な実践交流事例を研修した。次年度は教職員が対話的手法を会得し、計画的な生徒指導を実践できるよう取り組む。(◎) ・人権教育推進委員会を定例で開催し（週1回）中高系統性のある指導を行った。(○) ウ・仲間づくりをテーマに「メークハート運動」を実施し、生徒自らが課題を見つけ、解決に向けた取組みを進めた。実践発表の場としてメークハート集会を開催し、交流を深めた。(○) ・パッケージ化された生徒指導推進プログラムを実践した。具体的には、言葉の使い方に着目しコミュニケーション力向上のための指導や「個別カウンセリング」「いじめ防止授業」「メークハート運動」等を実施できた。(○) (生徒) 学校教育自己診断結果における悩み相談の満足度「相談できる先生」75%となり過去最高値となった。「相談できる友達・先輩後輩等」87%で目標を十分達成した。(◎) ・いじめ防止をテーマとした府及び市の生徒会サミットに参加（計2回）し、生徒集会で内容を共有した。(○) ・演劇的な手法を用いたコミュニケーション力の育成の取組みについて文化祭で発表した。(○) ア・中学1年時に台湾、2年時に台湾、ネパール、マレーシア、3年時にグアムの中・高校生と全生徒が手紙、オンライン、修学旅行等で交流し友好を深めた。(◎) イ・新たな海外交流先としてグアムのAcademy of Our Lady of Guam Father Duenas Memorial Schoolの2校と提携し、事前交流・修学旅行を実施した。 ・グローバルプログラムをリニューアルしグローバルリーダー育成海外研修先としてネパールを新たに加え、実施した。(○) (生徒) グローバル教育推進度96%を達成した。(◎)

府立富田林中学校

4 中高一貫校としての組織の活性化と地域・保護者との連携	(1) ア 中高一貫の観点で「スクール・ミッション」「スクール・ポリシー」を策定すべく、それぞれ校種の校務分掌を有機的に関連付けて協働させ、学校全体で共通認識を図る。 イ 全国的な教育研究会への参加や、全国的教育先進校等の視察を行い、中高6年間の教育内容を常に検討し改善に努める。 ウ 中高一貫校として、またコミュニティ・スクール、スーパーサイエンスハイスクールとして相応しい学校 Web ページとなるよう随時改修しながら、質・量ともに充実した情報発信に努める。 (2) ア コミュニティ・スクールとして広域外部サポーター(同窓会・企業・大学・自治体・NPO 等)と連携のもと社会貢献を推進し、魅力ある学校づくりをめざす。 イ 安全・安心な学校づくりに努める。	(1) ア・中学、高校それぞれの対応する分掌を協働的に機能させる。 - 策定した「スクール・ミッション」を受け、全校的に「スクール・ポリシー」の策定に取り組み、高校と共に共通認識を図る。 イ 全国的な教育研究会、先進中高一貫校・SSH 校・コミュニティ・スクール校等の先進的な取組みを視察・情報収集等を通してカリキュラムや組織体制を充実させる。 ウ・2年前に全面改訂した学校 Web ページを随時改修し、各組織においては定期的な情報更新に努める。 (2) ア・学校運営協議会を設置し、学校運営や学校の課題に対して、教育課程を社会に開きより多くの方々が学校運営に参画できるように努める。 - コミュニティ・スクール推進委員会を組織し「めざす学校像」の共有化を図り、中高一貫した取組みを進める。 - コミュニティ・スクール広域外部サポーターとの連携を基礎に、課題を見付け、その解決に向けて生徒が協働的に取り組み、成果を「とんこう地域フォーラム」等で発表する。 - 地域からの要請に応えるだけでなく、地域に出かける活動を取り入れる。 イ・教員だけでは対応できない教育課題(ヤングケアラー等を含む)解決のための人材(SC、SSW、識者等)を「学校支援チーム」に効果的に配置する。 - 中高一貫した防災教育計画に基づき防災訓練等を実施するとともに、安全安心のための学校環境の整備を行う。	(1) ア・(教員) 分掌・教員間での中高連携満足度 55%以上を維持向上する。[67%] (教員) 教育理念を意識した教育活動 85%以上をめざす。[80%] (保護者) 教育方針の明確化 90%以上維持する。[93%] イ 先進校等の情報を収集し、職員会議等での情報共有(2回以上)をめざす。[4回] ウ(保護者) 学校教育自己診断における情報発信の満足度 90%以上をめざす。[89%] (2) ア・学校運営協議会を設置し、取り組み内容についてより多くの方々が学校運営に参画した熟議開催(2回以上)をめざす。[4回] - 学校運営協議会委員が教育活動に係り教育活動を推進するCS協議会を年3回以上開催し、より企業等との連携を充実させる。[3回] - 産官学協働による学びの成果を「とんこう地域フォーラム」等で発表する。 (生徒) 社会貢献意識育成満足度 90%以上を維持する。[91%] 寺内町フィールドワークを実施(1回)[1回] 河川清掃などの地域でのボランティア活動の1回以上の実施をめざす。[1回] 生徒会が中心となり幼稚園・小学校・中学校等と連携した活動の1回以上の実施をめざす。[0回] イ・専門家人材(SSW、SC、識者等)を活用し、機関連携や研修・講演等の1回以上の実施をめざす。[3回] 「学校支援チーム」連絡会議の10回以上の開催を維持する。[10回] 連絡手段体制を確立し、想定訓練等の1回以上の実施をめざす。[2回]	ア・(教員) 分掌・教員間での中高連携満足度 65%となり目標を達成した。次年度は委員会組織を分掌の中に取り込むなどして教員間の連携が進むよう改善する。(○) (教員) 教育理念を意識した教育活動は達成率が82%となり昨年度より上昇はしたものの目標値には届かなかった。校長の教育理念の明確化に対する教員の満足度は100%であるのに対し、意識した教育活動がわずかな上昇に留まっている点の改善を図るため、次年度は委員会、分掌での具現化をめざす。(△) (保護者) 教育方針の明確化は90%となり目標は達成した。今後も様々な機会を活用し方針を明確に伝えていく。(○) イ・全国先進校等を4団体視察し、職員会議等での共有を図った。(○) ウ(保護者) 学校教育自己診断における情報発信の満足度 88%となり目標にはわずかに届かなかった。次年度も引き続き各分掌での発信増を試みる。(△) ア・探究・グローバル学習に加え、校則改定や部活動の地域移行等をテーマとした熟議を4回開催した。(○) - CS 協議会を年4回開催し、より企業等との連携を充実させた。[3回] - 文科省主催令和6年度全国コミュニティ・スクール関係課協議会において、テーマ型コミュニティ・スクール推進をテーマに都道府県教育委員会に対し実践発表した。令和6年度「コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進」に係る優秀賞として文部科学大臣表彰を受けた。 また、産官学協働による学びの成果を「とんこう地域フォーラム」等で発表した。 さらに文科省主催「コミュニティ・スクール制度化20周年記念フォーラム」において本校卒業生(高校2年)が成果発表した。 今後もテーマ型コミュニティ・スクールの魅力を全国に発信していく。(◎) (生徒) 社会貢献意識育成満足度 95%となり目標を達成した。次年度以降、内容の改変、充実を図っていきたい。(◎) - 寺内町フィールドワークについては日程が合わず実施できなかった。次年度以降の実施について今後検討する予定。(△) - 近くの石川大清掃にボランティア活動の一環として1回参加した。(○) - 生徒会が中心となり小学校等と連携した挨拶運動を2回実施した。(○) イ・専門家人材(SSW、SC、識者等)を活用し、機関連携や研修・講演議等を5回実施した。 次年度以降も課題に応じたテーマでの開催を行う予定。 「学校支援チーム」連絡会議を10回実施し、学校だけでは解決が不可能な課題に対し、専門家の視点からのアセスメントにより方針の明確化が図れた。次年度はコミュニケーション力の育成により問題行動の未然防止に努める予定。(○) - 連絡手段体制を確立し、想定訓練等を2回実施した。(○)
---------------------------------	---	---	--	---

府立富田林中学校

5 働き方改革の推進	(1) ア 「大阪府部活動の在り方に関する方針」に則り、中高連携した部活動指導を行うとともに地域と連携した部活動の在り方についても検討する。その上で、ノークラブデー、ノー残業デーの徹底し、時間外勤務を縮減する。 イ 一般的に校務や業務負担を見直し、民間や外部人材を活用するなどアウトソーシングの観点も取り入れ、業務の軽減・効率化を図る。	(1) ア・府下全校一斉退庁日の呼び掛けを強化し定時退勤を促す。また、月毎の時間外勤務の総時間を職員にフィードバックして働き方見直しへの契機を作り、時間外在校時間が上限(45 時間／月)を超えないようにする。 イ・校務（事業等）を見直すことで業務の軽減化を図る。 ・教育活動において民間企業と連携するなど、アウトソーシング化を図る。	(1) ア・ノークラブデー、全校一斉退庁日を徹底し、一人当たりの1ヶ月平均時間外勤務(45 時間/週)以下を維持する。 ・各クラブのノークラブデーの徹底を周知するとともに、全校一斉退庁日に掲示板等での呼び掛けも行って、定時退勤を促す。 イ・校務（事業等）を2つ以上見直し働き方改革を進める。 ・(教員) 大学生・民間人等の支援による教育活動充実度 65%以上維持向上めざす。[60%] (教員) 学校教育自己診断結果における富田林中学校での勤務満足度 80%以上をめざす。[73%]。	ア・ノークラブデー、全校一斉退庁日を徹底し、一人当たりの1ヶ月平均時間外勤務時間が 48 時間/週となった。次年度に向け府教育庁の新規事業を取得し、さらに削減していく予定。(△) ・各クラブのノークラブデーの徹底を周知するとともに、全校一斉退庁日に掲示板等での呼び掛けも行って、定時退勤を促した。(○) イ・部活動の地域協働、コーディネータ会議の充実により教職員の負担軽減を図るなど改革を2つ進めた。次年度も分掌の改編やコーディネータを増員するなど改革を進める予定。(○) ・(教員) 大学生・民間人等の支援による教育活動充実度 59%に留まった。生徒の学力補充などに係り、企業等の連携による実践について研究する予定。(△) (教員) 学校教育自己診断結果における富田林中学校での勤務満足度 100%を達成し過去最高値となった。今後も魅力ある職場として定着するよう努力する。(◎)